

【シリーズ2】ロータリー米山記念奨学会 歴代理事長を訪ねて

四代目理事長・島津久厚様と語る カウンセラーによって生きる“米山記念奨学事業”



島津様(左)のご自宅で

“質実剛健にして穏やかで心温かな紳士”

という言葉がピッタリの島津久厚様。ロータリー米山記念奨学会の第4代目理事長です。600年もの歴史を持つ都城(みやこのじょう)島津家第28代当主。宮崎県都城市にお屋敷を構える一方、最近まで学習院院長の職にあった為、東京にも居を構え双方を行き来される暮らしが続いたとのこと。この度、学習院の名誉院長となられ、やっと故郷・都城に腰を据えられたとのことでした。

“お殿様が、都城に戻ってきてくれた!”と、嬉しさを語ってくれたのは地元のロータリアンで、“都城島津を温(たず)ねる会”前会長の土持吉之様と会長の桐野晃一様。私の訪問のために、“都城見学コース”をアレンジしてくださり、島津藩のなり明から道案内までくださったお二人です。

さらに、この土持様と桐野様を紹介してくださり、島津様との懇談に立ち会ってくださったのが菊地平パストガバナーでした。早朝、宮崎空港に降り立つ私を出迎え、遠く都城までご案内くださり、一日中お付き合いいただき感謝の限りでした。

“島津理事長にお会いできる!”これだけで私の思いは100%叶っているのですが、皆様のお陰で都城市内を車で周り、歩き、その地に暮らす方々の話をお聞きすることができました。そうした触れ合いによって、“地元の方が、故郷と島津家を愛し誇りとされている”ということを感じました。

その所以は、やはり島津様のお人柄でしょう。時代は変わったけれど、確かに、“人望厚いお殿様”が私の目の前におられる思いでした。

願いが叶った島津前理事長との対談、その様子をここに綴りたいと思います。

社団法人中華民国扶輪米山会 理事長 阮允恭

阮允恭: この度は、旭日重光章受章おめでとうございます。栄誉ある勲章を受章され、私もとっても嬉しいです。また、変わりなくお元気でおられますが、なにか秘訣があるのですか?

島津久厚: いやいや、ありがとう。実は、毎朝“木刀での100回素振り”を欠かしませんでした。これは若い頃からの習慣になっているので、お陰で元気でおります。

阮: こちらに伺う前に、この度都城市で文化財として保存されることとなった島津様のお屋敷を拝見してまいりました。4千500坪という敷地内にお屋敷と庭園・石蔵・土蔵、そしてテニスコートやプールの他に剣道場がありました。その道場でご幼少の時代から剣道に親しんでこられたのですね。

島津: ご覧になられましたか?あの道場は、今は板倉となっていました。元は剣術で名高い江戸時代の千葉周作道場で修行を積んだ当地の剣術家・渡辺甲介氏が建てたものです。歴史もさることながら、思い出深い懐かしい建物です。

阮: また、昭和48年の昭和天皇の行幸時には島津家にご宿泊されたそうですね。

島津: そうですね。そのお部屋は皆さんに見ていただくためにそのままにしておりました。

ところで、阮さんもお元気でなによりです。今回、阮さんは愛知県(2760地区)での“ホームカミング※”による招待を受けての来日だそうです。活躍している元米山奨学生が招待の対象となるわけだから、元米山奨学生として栄誉あることですね。

阮: はい、とても嬉しいです。私にとっては、米山奨学生になったことが“勲章”なのですが、今回のご招待を同じように誇りに思います。実は、私が米山奨学生としてお世話になったのは、1971年から3年間、神戸ロータリークラブでした(兵庫県:2680地区)。ですから、出身地区からの招待ではなくて、愛知県(2760地区)からのお誘いなのです。

米山学友ホームカミング制度とは～

2008年度に設立された新しい米山奨学事業の制度。活躍する学友を日本のロータリー地区単位で里帰りさせ、旧交を深め、日本留学の成果をアピールしてもらうための制度です。

島津： ほう、他の地区からの招待を受けるとは、素晴らしい。

阮： きっかけは、昨年秋に、愛知県(2760地区)の加納泉理事をはじめとする米山記念奨学委員会の役員とそ
のご家族が台湾に来られたのです。その折に、表敬訪
問や出迎えで終わるのではなく、交流や理解を深める
ための親睦の出会いを作るよう工夫しました。つまり、
その時の私たち台湾学友会の対応の在り方「恩返し
をしたいという“心”を“形”にしている」ことを評価し
てくださったようです。ですから、今回の卓話の中
では、台湾学友会や台湾の学友がどんな風に具体的
に恩返しを始めているかという内容をお話しています。

●恩返し1:台北で日本留学を考えるシンポジウム開催

島津： 存じており
ますよ。台
湾学友会
は、活発な
活動で知ら
れています。
私も参加さ
せて頂いた
が、今から3
年前、2006
年秋に台北で



台北の空港で受けた横断幕による歓迎

“日本留学を考えるシンポジウム”を開催して大成功
をおさめましたね。あれも台湾学友会による企画・開催
だった。予想を上回る400名の参加があり、その内、日
本からも110数名のロータリアンの参加があって反響
も高かった。台湾の空港に着いた時、大きな歓迎メッ
セージ付きの横断幕で出迎えられて驚きました。

阮： ああ企画は、当時の台湾学友会理事長の陳思乾さん
によるものでした。会場に台湾の高校生がたくさん集
まりました。現在、台湾から日本への留学生は毎年約
5,000人程度ですが、日本を留学先として選択する台
湾の若者がもっと増えて欲しいと思います。だから、私
達米山学友が先頭を切って、日本留学のお陰でこうし
て活躍している姿を伝えたかったのです。

島津： 蒔いた種が着実に、育って花開くとは、こういうことだ
と感ずますね。



多くの高校生で賑わった“日本留学を考える”シンポジウム

●恩返し2:日本の災害被災地に義捐金を

阮： それから、台湾学友会は、日本で地震災害にあった地
域にガバナー事務所を通して義捐金を送っています。
最近では、岩手・宮城沖地震災害の折に学友会メンバ
ーで募金を募り35万円を2520地区(宮城・岩手)のガ
バナー事務所に送りました。

島津： ロータリークラブではなくて、台湾学友会が義捐金を
日本に送ってくださったんですね。そりゃスゴイ。
ロータリー運動の理解者というだけでなく、まさに行
動に移しているところに頭がさがりますね。

●恩返し3:台湾に留学希望の日本人学生対象の奨学金設立

阮： 困った時はお互い様、これが大切だと思います。とも
かく日本に対して、そして日本のロータリアンに対して
恩返しをしたい、その目的を果たそうと学友みんな
で話し合うと、色々アイデアがでてくるのです。

島津： 私が理事長時代に聞いていた台湾学友会独自の奨学
金設立のことはどうなりましたか？たしか、台湾に留学
を希望する日本人学生を対象に奨学金制度を立ち上
げたい、ということだったですね。

阮： はい、米山
学友の許國
文さんから
の提案でし
た。彼は、台
湾学友でロ
ータリアン
になった中



で初めてガバ 島津様(左)を訪問していろいろお話できました
ナーになりました。彼の提案に多くの台湾学友が協力
して実現することになりました。お陰様で2008年度に
設立し、2009年秋から第1号の奨学生を迎えました。
奨学金による支援だけでなく、私達米山学友がカウ
ンセラーとなるのが大きな特長です。台湾学友会は、
毎月1回理事会を開いているので、奨学生は理事会に
参加してもらい、そこで奨学金を渡すというやり方
です。奨学金は私達台湾学友による寄付です。毎年1名
の採用計画がありますが、今、3年間分の資金が集ま
りました。制度の継続を考えると募金活動がとても大
切です。こうして、ロータリアンの皆さんがしてくださ
ったことと同じことをしてみると、大変さと有り難さが更
に分かります。

島津： 奨学金を渡すだけでなく、心のケアとしての“カウ
ンセラー制度”を導入している点が素晴らしい。それだけ、
米山学友にとってカウンセラーが重要であり心に残る
制度になっているということですね。

花火のようでは無く、漣（さざなみ）のように伝わっていく 感謝の気持ち～米山記念奨学事業はカウンセラーによって生かされている

阮： ロータリアンと共に例会に参加できて、カウンセラーの心の支援をもらい、細かな配慮や生活面を気にしていただいことは、今でも心に深く刻まれています。ひとりぼっちで日本に来ている留学生にとって、誰かが自分のことを気にかけてくれる・・・と実感できるだけで幸せです。だから台湾学友会で奨学金制度を独自に作る時は、必ずカウンセラー制度を入れたかったんです。大人になるにつれて、このご恩の大きさをもっともっと感じるのです。

島津： カウンセラー制度は米山奨学事業の特長です。国費奨学金は支給金額は若干多いのですが、これには無い優れた制度が「世話クラブ、カウンセラー制度」です。国費留学生の場合は、人と人との触れ合いが無くて寂しい。他の団体でもこういう制度は無いんじゃないかな。ロータリー米山記念奨学会の理事長職は、初代田誠さんから、湯浅恭三さん、そして末永直直さんから私に渡されて、現在は板橋敏雄さんに引き継がれていますが、その時代によって試行錯誤があったものの、変わらないのは“平和を愛する日本”を伝えていきたいという思いです。そのためには、奨学生との触れ合いをロータリアンが持つことが必須だった。カウンセラーによって米山奨学金制度は生きたものになっていると思います。人と人との心の触れ合いが本当に大切ですね。

阮： カウンセラーに論文をみてもらって、文章を直してもらったこともあります。私が卓話でお話していることですが、“泉と漣（さざなみ）”のような感謝の気持ちが大切だと思っています。花火のようにパッと咲いて散るのではなくて、感動や有り難みが泉のように湧き、その感謝の気持ちが漣（さざなみ）のようにヒタヒタと伝わっていくような気持、それが私のロータリーや米山奨学金に対する気持です。派手ではないけれど、ずーっと続いていく感謝の気持ちを持ち、何かの形でいただいた恩に報いたいという静かな思いがあります。こういう思いを持てることが、カウンセラーのお陰であり、生きた制度の証だと思います。

●都城・島津を温（たず）ねる会

阮： ところで、今回、私が宮崎空港に降り立つや、パストガバナーの菊地平様に出迎えていただき、しかも、ロータリアンであり都城島津を温（たず）ねる会・会長の桐野一様や前会長の土持吉之にお会いでき、短時間ながらも密度の濃い都城見学をさせて貰いました。皆様の温かなお気持ちに感謝します。



文化財として都市で保存されることになった島津邸

“都城島津を温（たず）ねる会”の存在は、島津様の周りの方々が作られた活動ですね。地元の文化・島津家を大切にしたい、という温かな思いが伝わってくる活動だと思いました。地元の方にこのように愛されて大切にされる島津家を、さらに偉大に感じます。

しかも、今後、島津様のお屋敷が都城市によって保存されるようになれるということもお聞きました。さらに、島津家の貴重な文献などを市に寄贈なさったそうですね。

島津： 歴史的文献などは市で管理保管してほしいと思い、都城市に寄贈しました。個人がこのまま持っていて、資料が分散してしまうと残念ですから。島津家の史料は、都城にあってこそ価値があると思います。それに、私は都城に対して愛情というか愛着がありますから、公共のものとして役立ててほしいと思います。また、歴史研究家の方々にも役立てて貰いたいですね。そして都城を沢山の人の知っていただきたい、そういう思いからです。

阮： 都城・島津を温（たず）ねる会の桐野会長や土持前会長が言っておられました・・・“島津の

都城島津を温（たず）ねる会とは～
都城島津家の古く長い歴史と功績を顕彰・検証し、貴重な郷土の遺産として維持・活用したいという目的をもつ市民団体。

お殿様は、他のお殿様が東京にそのまま住まわれてしまうことが多いのに、都城に戻ってくださった！”と、嬉しそうに話してくれました。とても印象に残っています。島津様の都城に対する愛情が、きちんと地元の方々に伝わっていると思いました。都城島津を温（たず）ねる会の存在は、その現れの一つでありとても心温まるものだと思います。羨ましいです。



←右から、土持様、菊地パストガバナー左が桐野様。島津家発祥から歴史など丁寧に説明をしてくださいました。



この度は、お忙しい中、お時間をいただきありがとうございました。今回の訪問を通して、都城を大好きになりました。これも、島津様をはじめ、菊地パストガバナー、土持様、桐野様のお陰です。ありがとうございました。

島津久厚 様のご紹介

都城ロータリークラブ初代会長。国際ロータリー第370（九州）ガバナーとして活躍後、国際ロータリーの要職を歴任。島津山林（株）、島津茶園を設立・経営する一方、赤十字社理事など数々の公職に就く。
1993（平成5）年から2002（平成14）年まで学習院院長、現在、名誉院長。2001（平成13）年に（財）ロータリー米山記念奨学会理事長となり、2007（平成19）年から名誉理事長。紺綬褒章、農林水産大臣賞、藍綬褒章、旭日重光章など受章。